

第111回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

本日、前回の火山噴火予知連絡会（平成20年6月23日）以降の全国の火山活動について検討を行いました。現在までの全国の火山活動の評価は以下のとおりです。

全国の主な火山活動

雌阿寒岳では、9月26日以降火山性地震が増加、29日には振幅のやや大きな火山性微動が発生し、直後から火山性地震が多発したことから、ポンマチネシリ火口から500m程度に影響するようなごく小さな噴火の可能性が高まったとして、火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。ポンマチネシリ火口周辺では、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

浅間山では、8月に入って火山性地震の回数がさらに増加したこと、8月6日頃から噴煙量が増加したことなどから、火山活動が高まったと判断し、噴火警戒レベルを1から2に引き上げました。その後、10日、11日及び14日には、ごく小規模な噴火が発生しました。その後も火山活動が高まった状態が続いており、今後も火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、これらの地域では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

霧島山（新燃岳）では、8月19日から火山性地震が増加し、22日には噴火が発生するなど、火山活動が高まったと判断したことから、噴火警戒レベルを1から2に引き上げました。引き続き新燃岳では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

桜島昭和火口では、爆発的噴火や小規模な噴火が時々発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が4～6合目（昭和火口より300mから1300m）まで達しました。7月28日の2回の噴火では、噴煙が火口縁上3300mと3200mまであがりました。これにより、火山活動が高まったと判断し、同日、噴火警戒レベルを2から3に引き上げました。その後、噴火の発生が少ないことなどから、8月28日に噴火警戒レベルを3から2に引き下げました。今後、昭和火口及び南岳山頂火口から1km程度の範囲に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

口永良部島では、新岳火口直下のごく浅い領域において9月2日以降地震が増加し、4日にはさらに増加したことから、火山活動が高まったと判断し、同日、噴火警戒レベルを1から2に引き上げました。口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

三宅島では、多量の火山ガス放出は当分継続すると考えられます。引き続き、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想され、火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

雌阿寒岳 [火口周辺警報（火口周辺危険）] 平成20年9月29日に噴火予報（平常）から火口周辺警報（火口周辺危険）に引き上げました。

- ・ 9月26日以降、体に感じない程度の小さな火山性地震が増加、29日には振幅のやや大きな火山性微動が発生し、直後から火山性地震が多発したことから、火山活動が高まったと判断し、火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。
- ・ 9月30日以降、火山性微動は観測されていません。火山性地震の発生は少なくなっていますが、26日より前の状態には戻っていません。噴煙は、火山性微動発生の前で状況に変化はみられず、火口縁上100m以下で低調に推移しています。GPS観測による地殻変動には特段の変化は認められません。
- ・ 雌阿寒岳では、1988年、1996年、2006年の火山性地震の増加・減少を繰り返した後にごく小さな噴火が発生していることから、今後しばらくの間は、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

十勝岳 [噴火予報（平常）]

- ・ GPS等の観測によると、2006年以降、62-2火口付近の浅部の膨張を示すと考えられる局所的な地殻変動がみられており、2008年になっても継続しています。火口付近の地震活動及び62-2火口等の噴煙活動や熱活動は低調に推移していることから、ただちに火口周辺に影響を及ぼすような噴火に結びつくとは考えていません。
- ・ 今後それらの活動が高まった場合には、火口周辺に影響を及ぼすような小規模な噴火が発生する可能性がありますので注意が必要です。

樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

- ・ A火口及びB噴気孔群では高温の状態が続いていますが、火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

倶多楽 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

恵山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

岩木山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

岩手山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

秋田駒ヶ岳 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

栗駒山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

吾妻山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

安達太良山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

磐梯山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

那須岳 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

草津白根山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

- ・湯釜火口内北東部に新たな小噴気孔を確認し、その後の観測でも噴気地帯が拡大しています。また、水釜火口の北側にあたる斜面では明瞭な噴気を確認しました。
- ・10月2日から4日にかけて湯釜火口の浅い所で地震が一時的にやや増加しました。
- ・今後これらの活動がさらに高まった場合には、火口内で噴出等の現象が発生する可能性がありますので注意が必要です。

浅間山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)] 8月8日に火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) を発表し、レベル 1 (平常) からレベル 2 (火口周辺規制) に引き上げました。

- ・7月頃から火山性地震のやや多い状態が続き、8月5日以降はさらに増加したことから、火山活動が高まったと判断し、噴火警戒レベルを 1 から 2 に引き上げました。

- ・ 8月10日、11日及び14日にごく小規模な噴火が発生しました。いずれの噴火でも山麓及び山腹の道路や居住地域では、降灰は確認されませんでした。12日に行った現地調査では、火口縁付近に最も厚いところで約3cmの火山灰が堆積しているのを確認しました。
- ・ 7月頃から、火山性地震及び火山性微動はやや多い状態で推移しており、8月に入ってさらに増加し、8月10～14日のごく小規模噴火発生以降も増減を繰り返しながら多い状態が続いています。
- ・ 噴煙は、8月6日頃から量が増加し、火口縁上概ね200～300mで推移しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、2008年以降7月17日までは一日あたり概ね100トンとやや少ない状態でしたが、噴火した8月10日以降の観測では、一日あたり概ね1100～2900トンと多い状態が続いています。
- ・ 山体周辺のGPS連続観測では、7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられています。
- ・ 引き続き火山活動が高まった状態が続いており、今後も火口から概ね2キロメートルの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、これらの地域では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。
- ・ 火山ガス放出量の多い状態が続いていますので、風下側にあたる登山道等では、火山ガスに注意が必要です。

新潟焼山 [噴火予報(平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

焼岳 [噴火予報(平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

御嶽山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

白山 [噴火予報(平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

富士山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

箱根山 [噴火予報(平常)]

- ・ 9月9日から20日頃にかけて断続的に、駒ヶ岳付近を震源とする一時的な地震の増加がみられました。
- ・ GPS観測によれば、箱根山を挟む基線で、6月からわずかに伸びの傾向が見られます。

- ・噴気等の表面現象には特段の変化はみられていません。火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

伊豆東部火山群 [噴火予報(平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

伊豆大島 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・10月1日に伊豆大島西部を震源とする地震が一時的に増加しました。
- ・GPS、光波距離計及び体積歪計による地殻変動観測では、地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向が継続しています。短期的には3月頃より収縮傾向がみられていましたが、7月中旬頃より再び膨張傾向になりました。
- ・火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

- ・二酸化硫黄放出量は一日あたり1千~3千トンと、依然として多量の火山ガス放出が続いています。
- ・地震活動や地殻変動にはこれまでの傾向と比べ特に大きな変化はみられません。
- ・引き続き三宅島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。
- ・多量の火山ガス放出が続いており、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに警戒が必要です。また、雨による泥石流にも注意が必要です。

八丈島 [噴火予報(平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

硫黄島 [火口周辺警報(火口周辺危険)]

- ・地震活動は落ち着いた状態で経過しており、地温の高い領域や噴気の温度に大きな変化は認められていません。2006年8月以降みられていた島全体が大きく隆起する地殻変動は、2008年5月に入って鈍化しましたが、現在も継続しています。
- ・硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要です。

福徳岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)]

- ・変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

4.九州地方・南西諸島

九重山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・中岳第一火口の湯だまり量は10割の状態が続いています。中岳第一火口の湯だまりの表面温度及び南側火口壁の温度は高い状態が続いています。
- ・孤立型微動は、多い状態が続いていましたが、7月頃より減少し、8月にはさらに減少しています。
- ・火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。
- ・南阿蘇村吉岡(中岳第一火口から西南西約6km)の噴気は噴出力がやや強く、引き続き噴気活動に注意が必要です。

雲仙岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山

新燃岳 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 8月22日に火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を発表し、レベル1(平常)からレベル2(火口周辺規制)に引き上げました。

- ・8月19日から振幅の大きな火山性地震が増加し、22日には噴火が発生するなど、火山活動が高まったと判断したことから、同日、噴火警戒レベルを1から2に引き上げました。
- ・この噴火により、これまで噴気等が確認されていなかった火口内西側斜面に大きな火孔を確認しました。また、火口西側の外側斜面に新しい割れ目が出来ているのを確認しました。その周囲では、大きな噴石を確認しました。
- ・この噴火により、新燃岳の北東側にある小林市や高原町で降灰を確認しました。噴出物中にマグマ物質は確認されませんでした。
- ・今回の噴火による、噴石の飛散範囲、降灰範囲はともに1959年2月の噴火と比べ、下回っています。
- ・火山性地震は噴火後、次第に減少していますが、8月18日以前より多い状態が続いています。
- ・噴火以降、噴煙量はやや多い状態が続いています。
- ・引き続き新燃岳では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

御鉢 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 桜島警報発表履歴は次のとおり。

平成20年7月14日に火口周辺警報を発表、噴火警戒レベル3(入山規制)からレベル2(火口周辺規制)に引下げ。

7月28日に火口周辺警報を発表、レベル2(火口周辺規制)からレベル3(入山規制)に引上げ。

8月28日に火口周辺警報を発表、レベル3(入山規制)からレベル2(火口周辺規制)に引下げ。

- ・昭和火口では、爆発的噴火や小規模な噴火が時々発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が4~6合目(昭和火口より300mから1300m)まで達しました。7月28日の2回の噴火では、噴煙が火口縁上3300mと3200mまで上がりました。これによ

り、火山活動が高まったと判断し、同日、噴火警戒レベルを2から3に引き上げました。その後、噴火の発生が少ないことなどから、8月28日に噴火警戒レベルを3から2に引き下げました。

- ・南岳山頂火口では7月5日と8月23日に爆発的噴火が発生するなど小規模な噴火活動が継続しています。
- ・火山性地震や火山性微動は少ない状態が続いています。
- ・二酸化硫黄放出量は、6月以降、一日あたり概ね1,000トンで推移しており、5月頃に比べるとやや少なくなっています。
- ・有村観測坑道の水管傾斜計では、7月12日頃から火口方向の上昇を示す傾斜変動がみられています。
- ・今後、昭和火口及び南岳山頂火口から1 km程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。
- ・GPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ深部(鹿児島湾奥部)の膨張による変化が引き続き観測されているので、今後、始良カルデラの地下深部に蓄積したマグマが桜島直下へ多量に移動・上昇した場合には、火山活動が活発化する可能性があります。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・硫黄岳火口の噴煙活動はやや活発で、火山性地震もやや多い状態が続いています。
- ・硫黄岳火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）] 9月4日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表し、レベル1（平常）からレベル2（火口周辺規制）に引き上げました。

- ・新岳火口直下のごく浅い領域において9月2日以降振幅のやや大きな地震が増加し、4日にはさらに増加したことから、火山活動が高まったと判断し、同日、噴火警戒レベルを1から2に引き上げました。
- ・GPSによる連続観測では、9月以降、新岳火口の膨張を示す変化が継続しています。
- ・9月4日と6日の観測では、噴気や高温域に特段の変化は認められませんでした。10月1日には、火口内の南側火口壁で噴気が増加しているのを確認しました。
- ・二酸化硫黄放出量は、9月以降増加する傾向が見られています。
- ・口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、火口から1 km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・御岳火口で小規模な噴火が時々発生し、^{おたけ}十島村役場諏訪之瀬島出張所^{としまむら}によると、集落で時々少量の降灰が確認されました。
- ・御岳火口から半径約1 km程度の範囲に、弾道を描いて飛散する大きな噴石が達する程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。

注) 噴火警戒レベルは平成20年10月8日現在、19火山に導入している。

全国の活火山の噴火警報及び噴火予報発表状況

(1) 主な活火山(37火山)

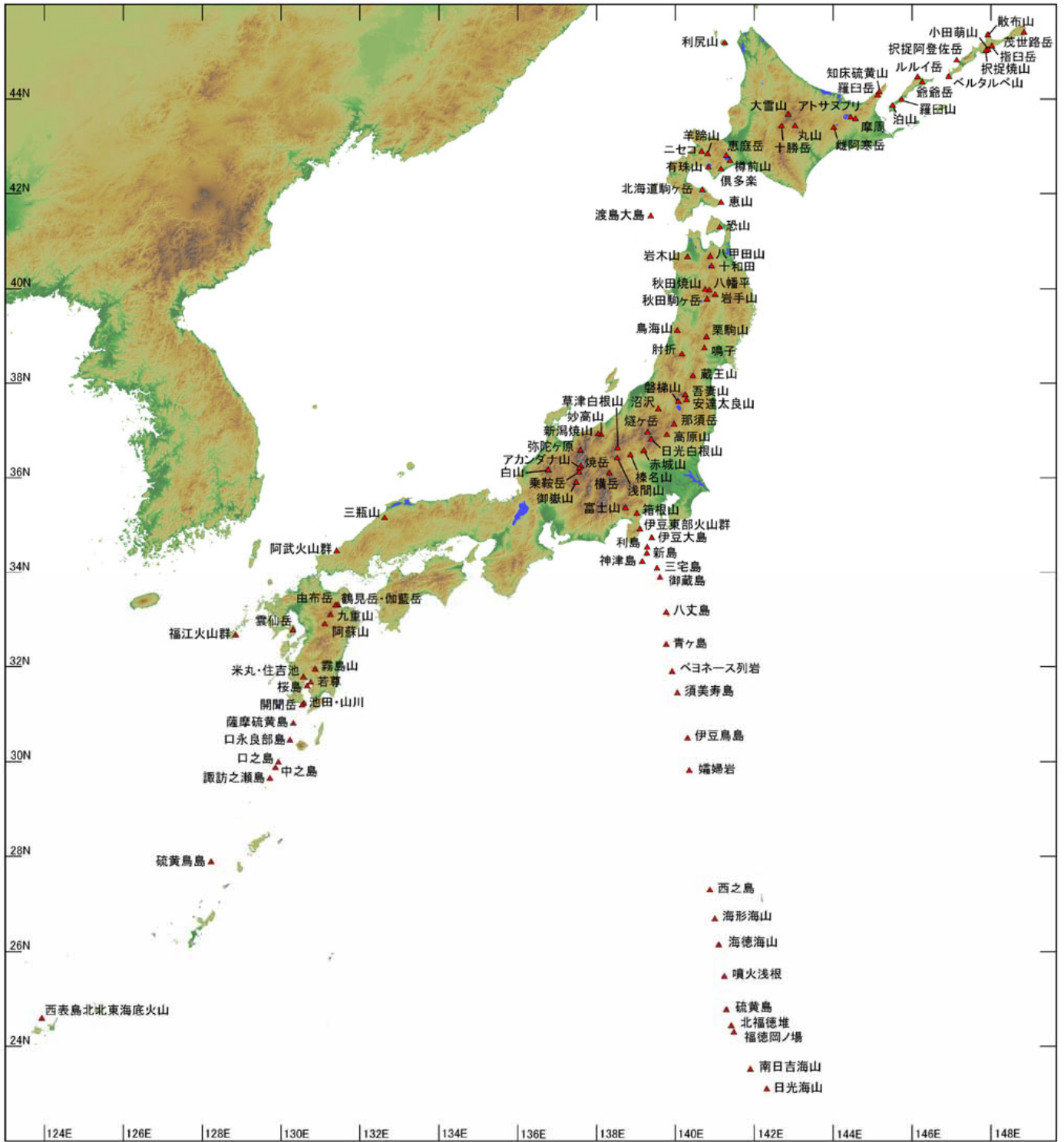
地方	火山名	現在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年9月29日 火口周辺警報(火口周辺危険)
	十勝岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	樽前山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	倶多楽	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	有珠山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年6月9日 噴火予報(レベル1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	恵山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
東北地方	岩木山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	岩手山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	秋田駒ヶ岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	栗駒山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	吾妻山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	安達太良山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	磐梯山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	草津白根山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	浅間山	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月8日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	新潟焼山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	焼岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	御嶽山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	白山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	富士山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	箱根山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	伊豆東部火山群	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	伊豆大島	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	三宅島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年3月31日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	八丈島	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	硫黄島	火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日 火口周辺警報(火口周辺危険)
福徳岡ノ場	噴火警報(周辺海域危険)	2007年12月1日 噴火警報(周辺海域警戒)	
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	阿蘇山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	雲仙岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月22日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	霧島山(御鉢)	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	桜島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	口永良部島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年9月4日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)

注) 噴火警報及び噴火予報の発表履歴は、2007年12月1日以降のものを記載しています。

(2) その他の活火山 (71火山)

以下の活火山では平成19年12月1日に噴火予報 (平常) を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

地 方	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ペコネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山



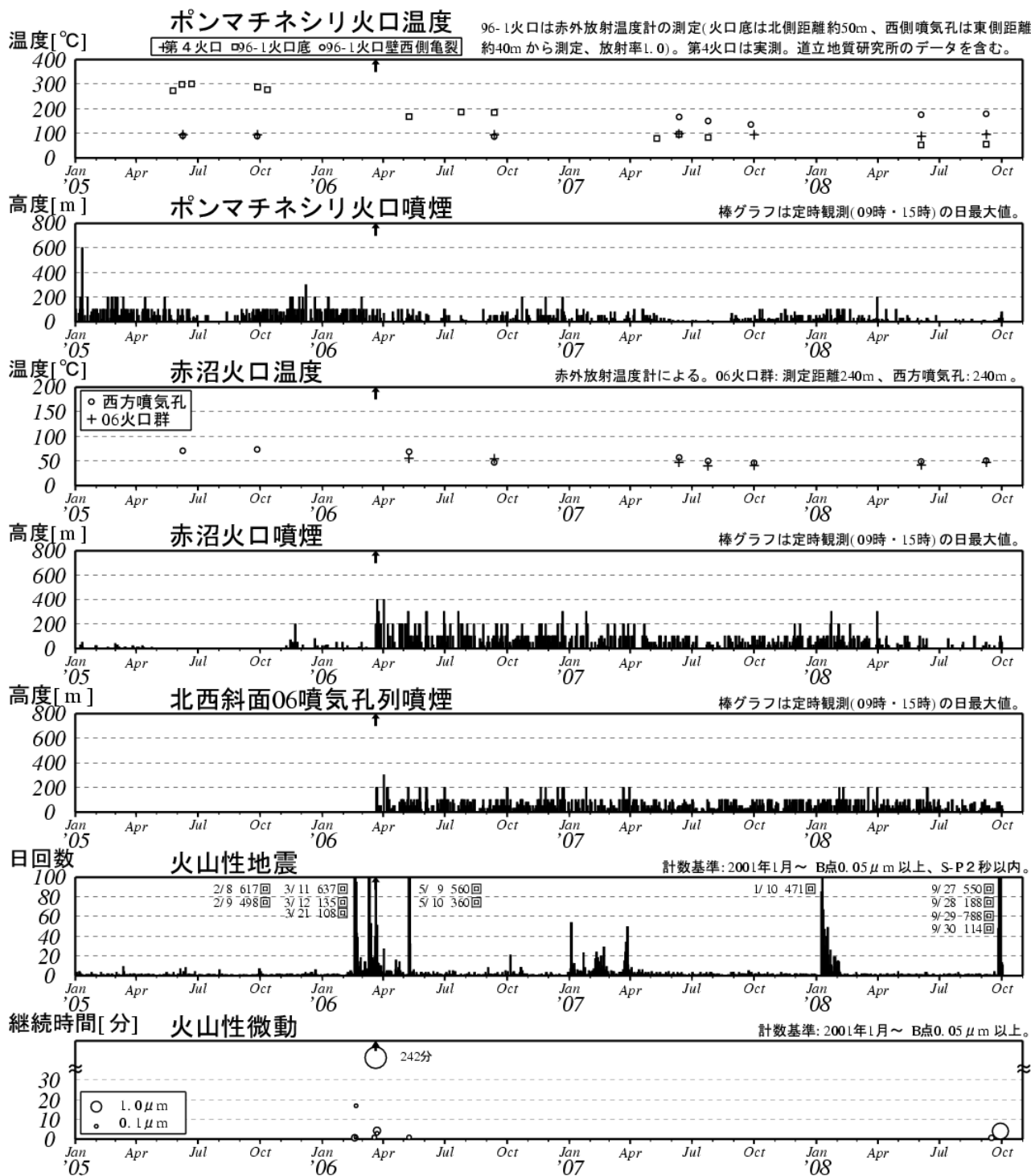


図 3※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (2005年1月1日～2008年10月2日) ↑印は噴火

- ・ ポンマチネシリ火口温度は低下傾向がみられている。
- ・ 赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006年3月のごく小さな噴火後数週間には活発な状態だったが、その後活動は次第に低下し、静穏な状況で推移している。
- ・ 地震活動は2006年3月のごく小さな噴火前後は活発な状況で推移した。その後は、2007年1～3月及び2008年1～2月にも増加した。2008年9月には、振幅のやや大きな火山性微動が発生し、火山性地震も多い状態となった。

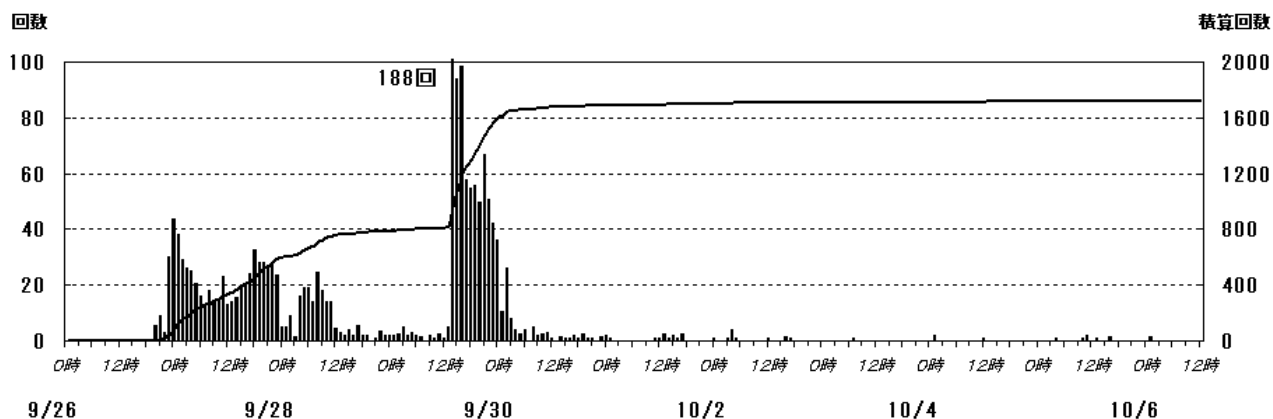


図 4 雌阿寒岳 火山性地震の時間別回数（2008 年 9 月 26 日～10 月 6 日 12 時現在）
棒グラフは時間別回数、折れ線グラフは積算回数

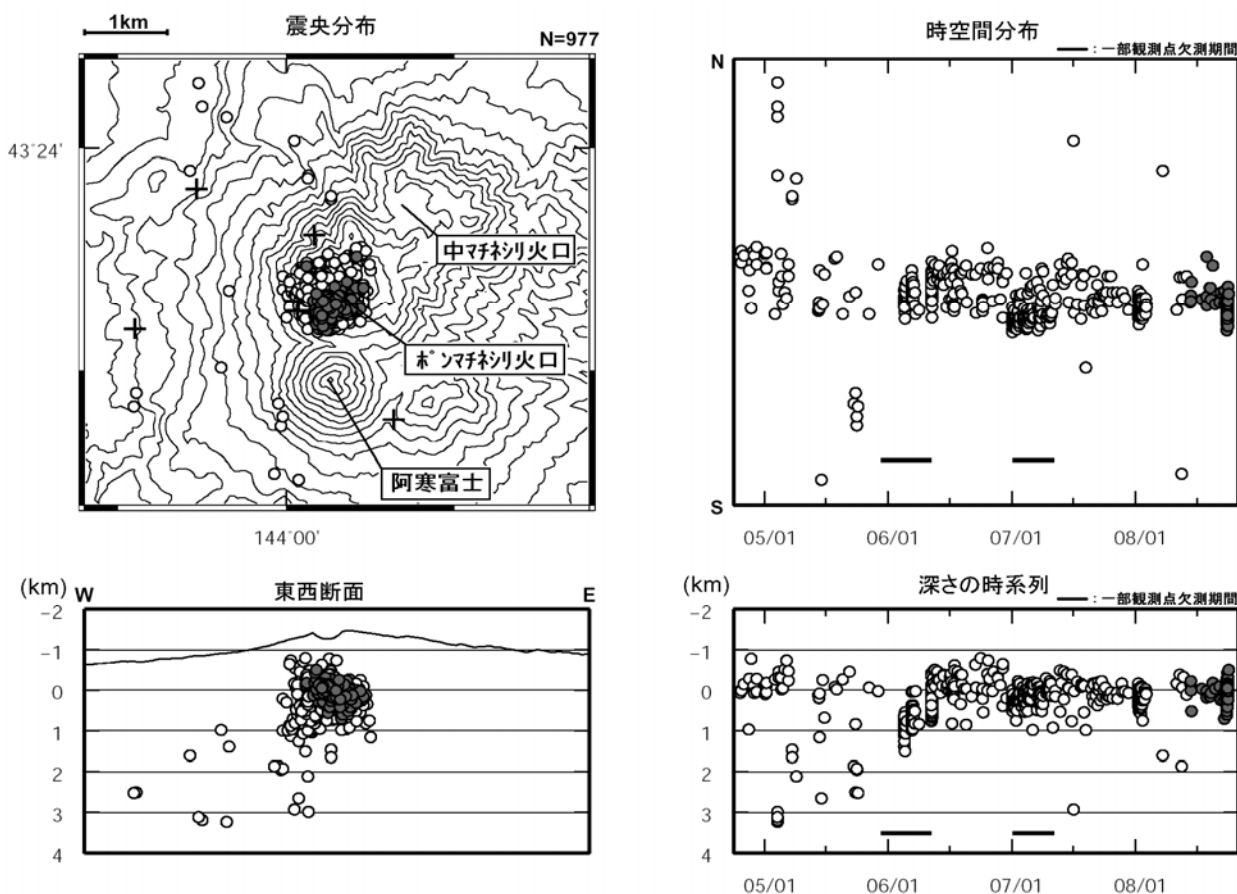


図 5 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2004 年 10 月 1 日～2008 年 10 月 2 日）+印は観測点
速度構造：半無限構造（ $V_p=2.5\text{km/s}$, $V_p/V_s=1.73$ ）
●：2008 年 6 月 1 日～2008 年 10 月 2 日の震源
○：2004 年 10 月 1 日～2008 年 5 月 31 日の震源
表示期間中 — で示した期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し精度が低下している。
この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した

・震源はポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～2km 付近）に分布している。

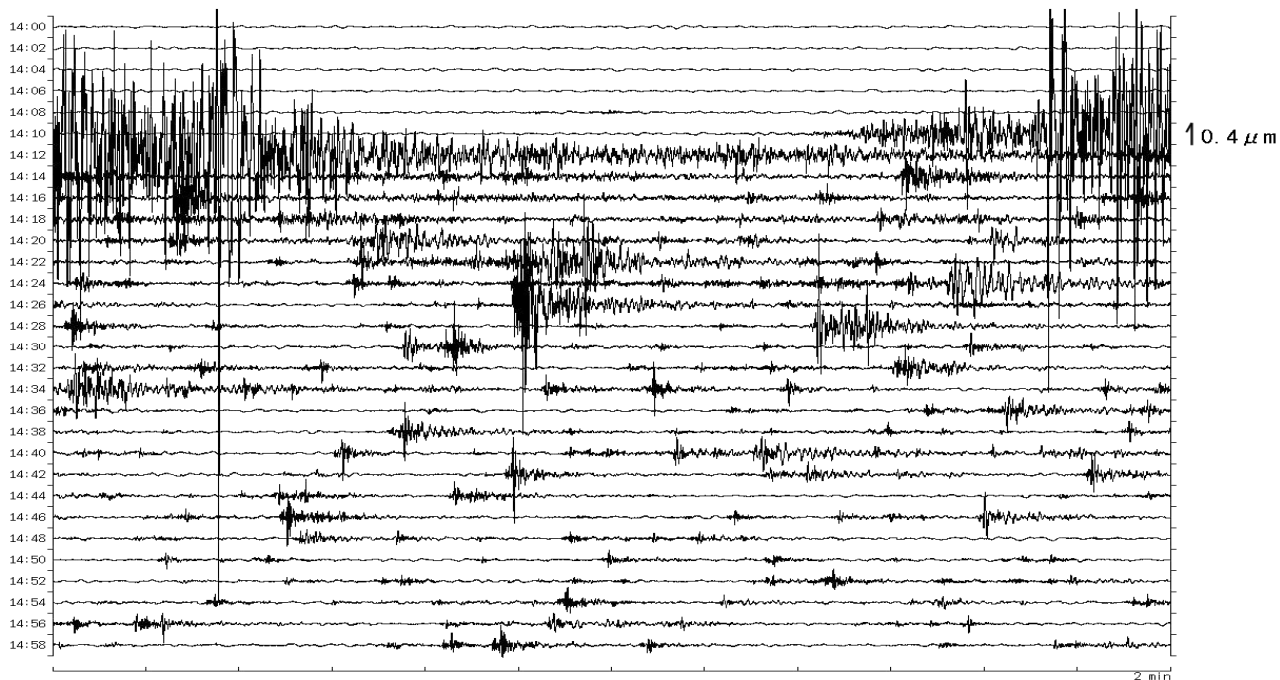


図 6 雌阿寒岳 2008 年 9 月 29 日 14 時 11 分の火山性微動と直後からの地震多発の状況 (B 点・南北成分・変位波形、2008 年 9 月 29 日 14 時 00 分～15 時 00 分)

- ・ 2008 年 9 月 29 日 14 時 11 分から振幅のやや大きな火山性微動が観測された。B 点 (ポンマチネシリ火口の西南西約 2.5km) での最大振幅は約 2.4 μm 、継続時間は約 4 分間であった。
- ・ 微動発生時に噴煙活動等表面現象に特段の変化はなかった。空振は観測されなかった。
- ・ 火山性微動の発生直後から火山性地震が多発した。
- ・ 2008 年 9 月 16 日 10 時 12 分にも振幅の小さな火山性微動が観測されている。B 点での最大振幅は約 0.2 μm 、継続時間は約 40 秒であった。

表 1 雌阿寒岳 最近の火山性微動の発生状況 (2006 年 1 月～2008 年 9 月)

発生日時	最大振幅 (μm)	継続時間
2006 年 2 月 18 日 09 時 09 分	約 0.2	約 1 分
2006 年 2 月 18 日 09 時 27 分	約 0.4	約 1 分
2006 年 2 月 19 日 01 時 03 分	約 0.1	約 1 分
2006 年 2 月 19 日 06 時 50 分	約 0.1	約 1 分
2006 年 2 月 20 日 05 時 49 分	約 0.1	約 17 分
2006 年 3 月 19 日 21 時 58 分	約 0.2	約 1 分
2006 年 3 月 21 日 06 時 28 分	約 4.3	約 240 分
2006 年 3 月 23 日 07 時 19 分	約 0.4	約 4 分
2006 年 3 月 23 日 16 時 54 分	約 0.1	約 3 分
2006 年 5 月 9 日 16 時 43 分	約 0.2	約 1 分
2008 年 9 月 16 日 10 時 12 分	約 0.2	約 1 分
2008 年 9 月 29 日 14 時 11 分	約 2.4	約 4 分

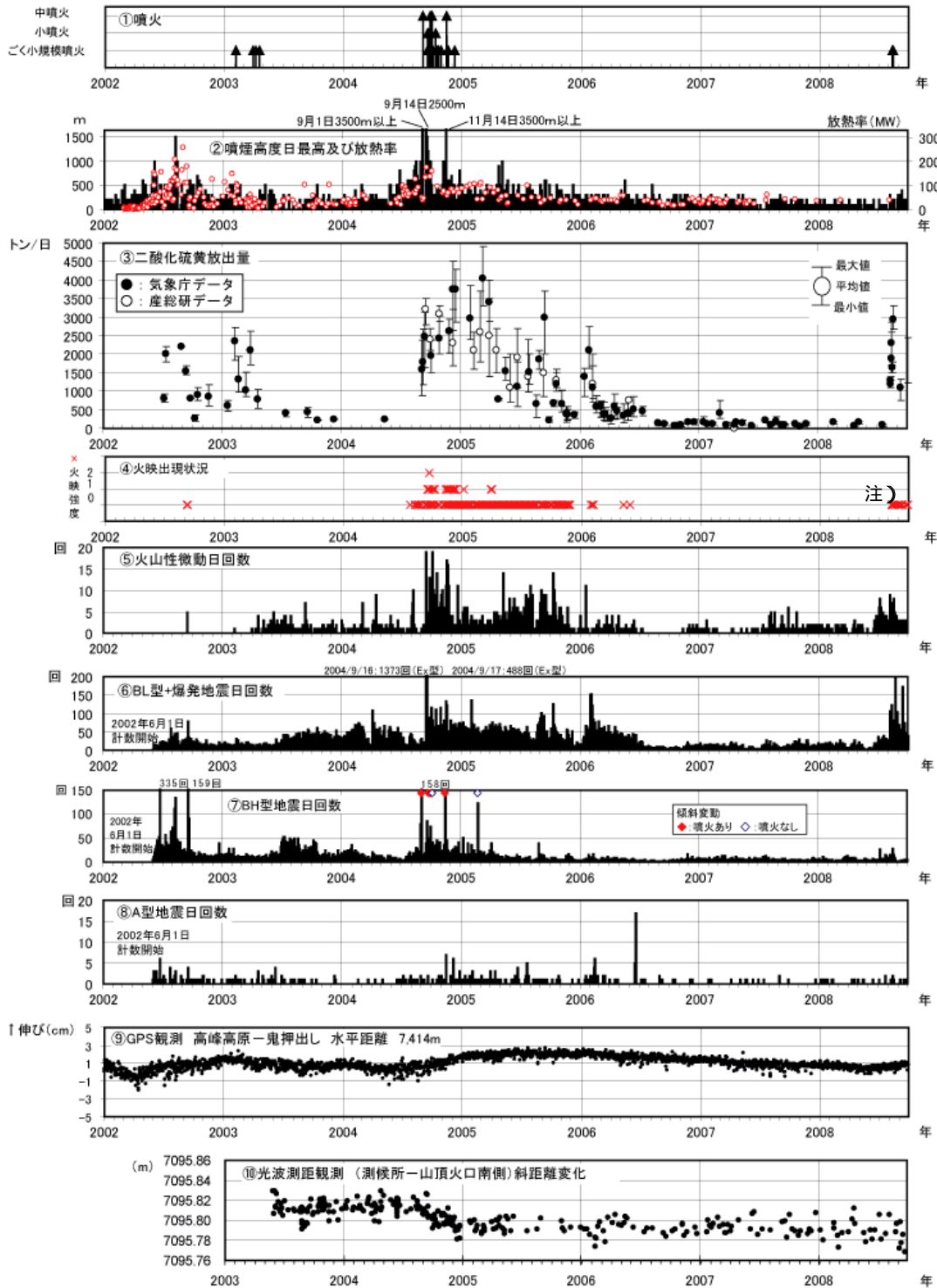


図 1 浅間山 最近の火山活動の推移 (2002 年 1 月 1 日 ~ 2008 年 9 月 30 日)
 の二酸化硫黄放出量は産業技術総合研究所のデータも含む
 測定は浅間山火山防災連絡事務所, 補正処理は気象研究所 (2008) による
 注) 2008 年 7 月より黒斑山の高感度カメラを監視に用いており、火映の検知能力が向上しています。

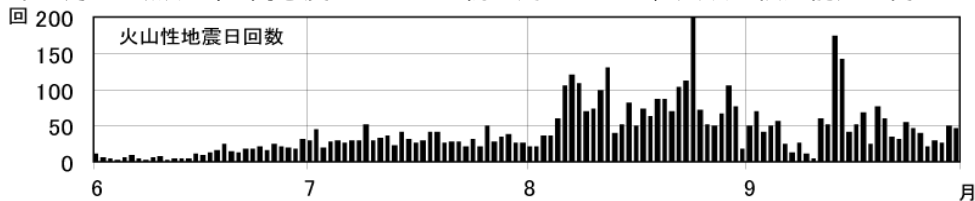


図 2 浅間山 火山性地震の日別回数 (2008 年 6 月 1 日 ~ 2008 年 9 月 30 日)

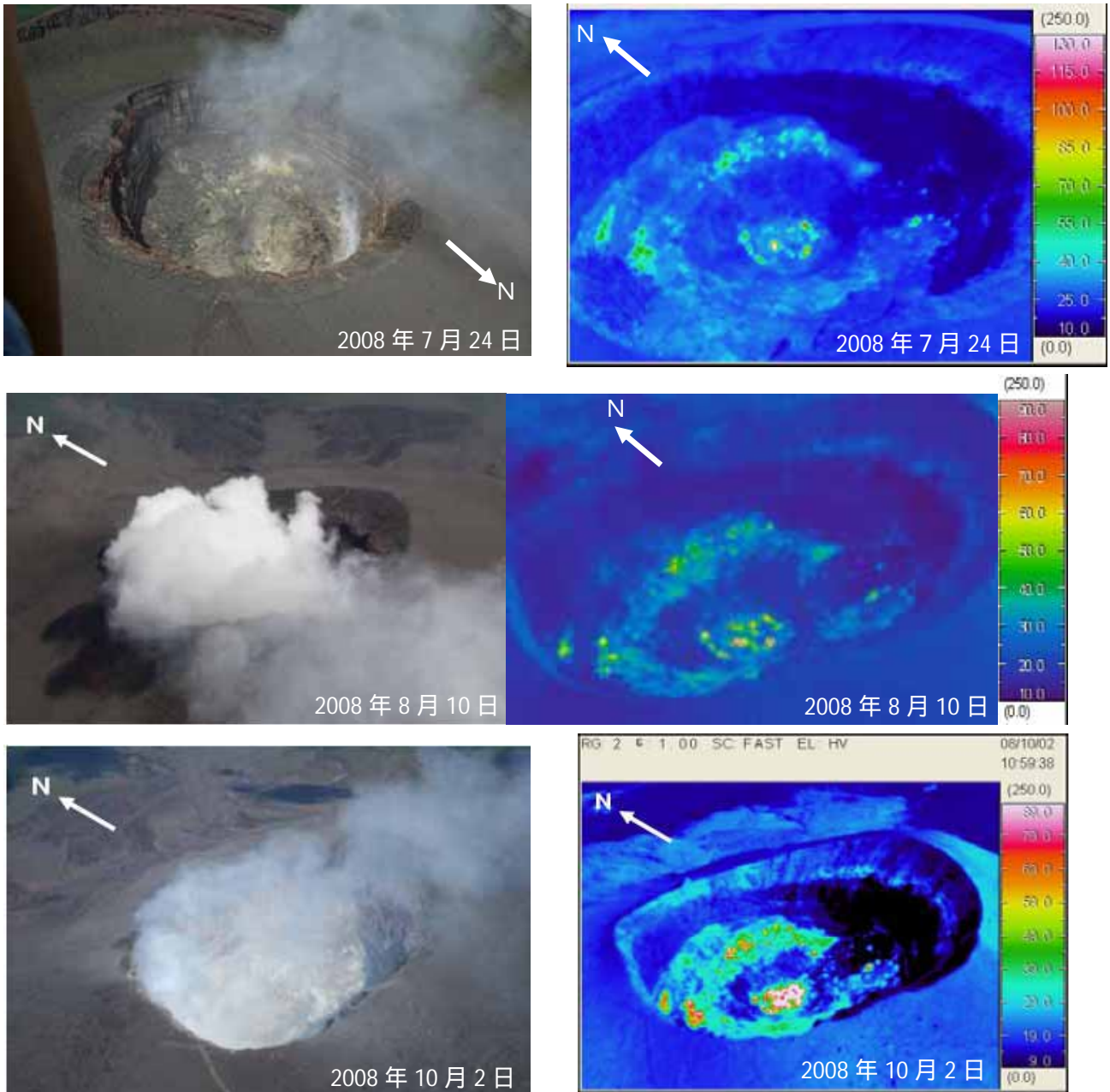


図 5 浅間山 赤外熱映像装置による山頂火口内の温度分布（上空から撮影）

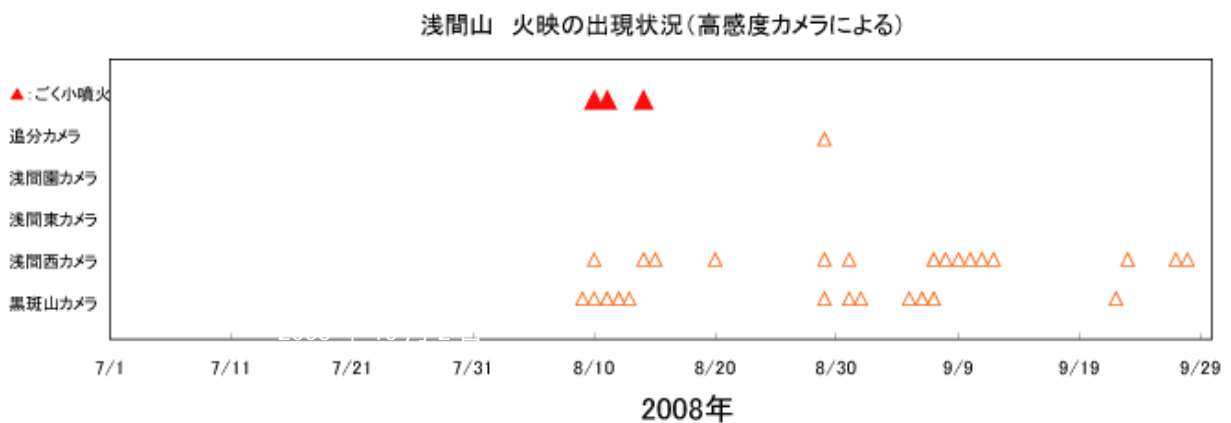
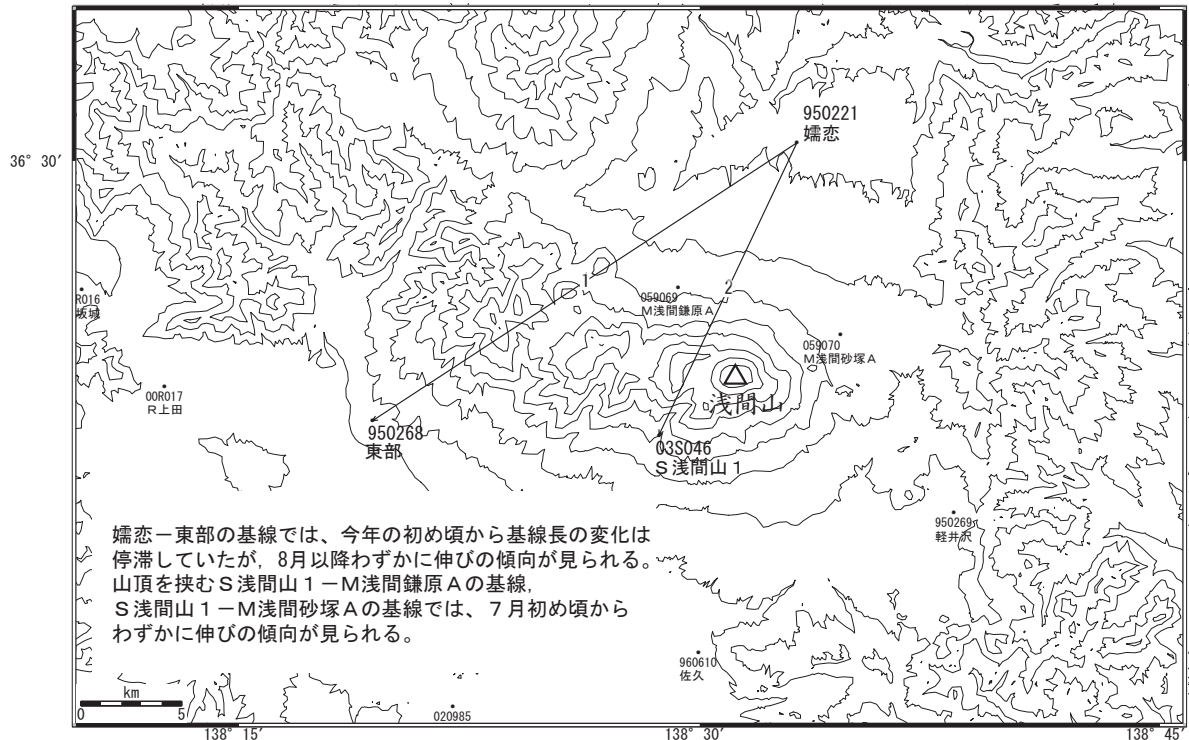


図 6 浅間山 火映の出現状況（高感度カメラによる、2008年7月1日～9月30日）

浅間山周辺 GPS連続観測基線図(1)

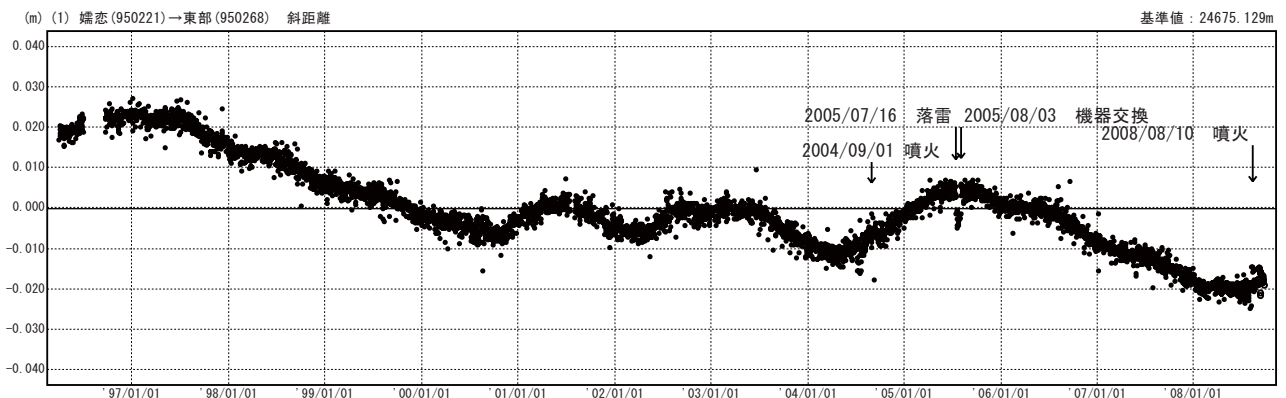


嬭恋-東部の基線では、今年の初め頃から基線長の変化は停滞していたが、8月以降わずかに伸びの傾向が見られる。
 山頂を挟むS浅間山1-M浅間鎌原Aの基線、
 S浅間山1-M浅間砂塚Aの基線では、7月初め頃からわずかに伸びの傾向が見られる。

国土地理院

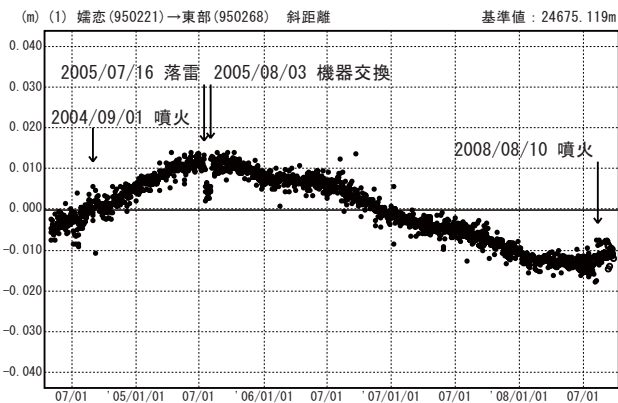
期間：1996/04/01～2008/09/23 JST

基線変化グラフ（全期間の変動）



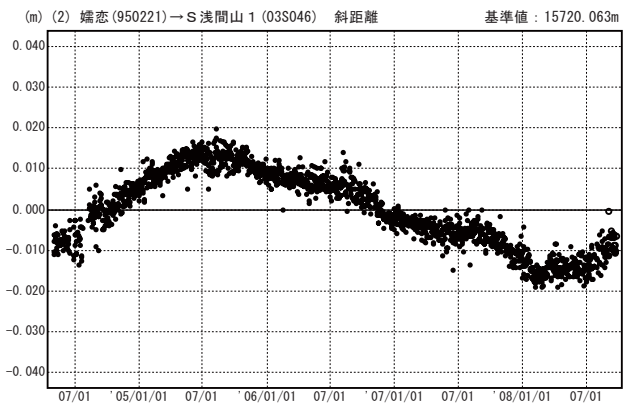
基線変化グラフ（最近の変動）

期間：2004/05/01～2008/09/23 JST



基線変化グラフ（最近の変動）

期間：2004/05/01～2008/09/23 JST



※電子基準点の保守等による変動は補正済み

浅間山

浅間山

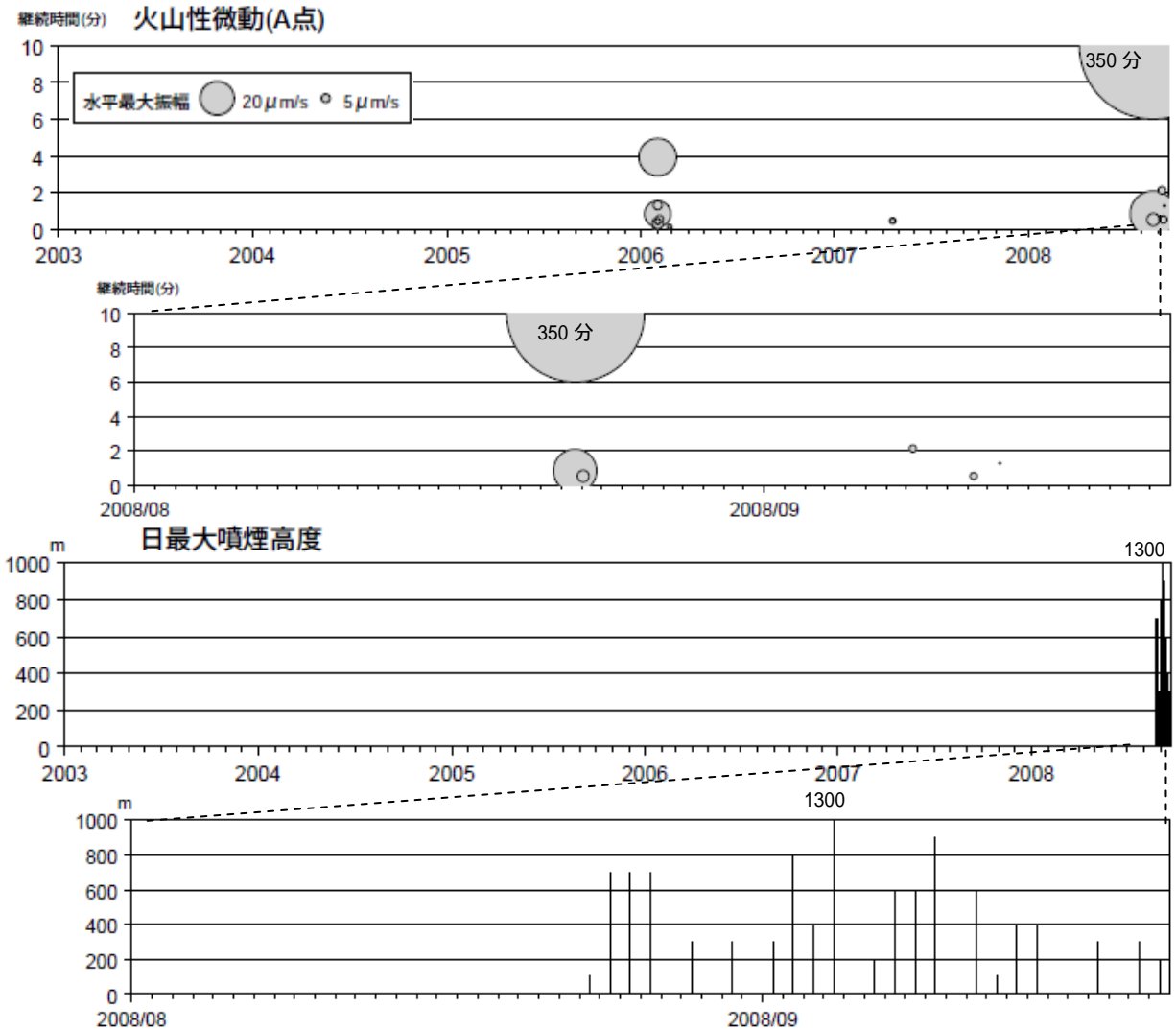


図 2 霧島山(新燃岳) 微動・噴煙の状況 (2003年1月1日~2008年9月20日)

- ・23日以降は、白色の噴煙を100~1,300mまで上げている。
- ・火山性微動は、6~7月に発生はなく8月22日に2回、23日に1回発生した。8月22日16時34分頃の噴火に伴う振幅のやや大きな微動は、22時25分まで続いた。9月は、振幅の小さな微動が8日、11日、12日に各1回発生した。

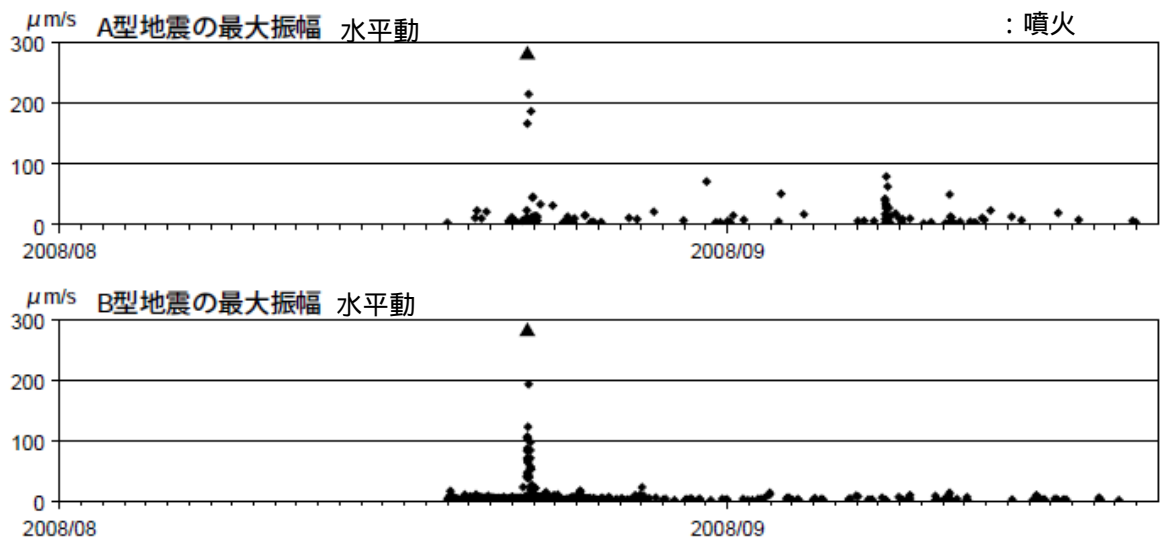


図 3 霧島山(新燃岳) 地震の最大振幅 (2008年8月1日~2008年9月20日)

- ・A型地震の最大振幅の地震は22日22時29分の地震で、霧島山A点水平動ではスケールアウトし、上下動で122.0 $\mu m/s$ であった。
- ・B型地震の最大振幅の地震は22日17時58分の地震で、霧島山A点水平動ではスケールアウトし、上下動で113.8 $\mu m/s$ であった。

霧島山(新燃岳)

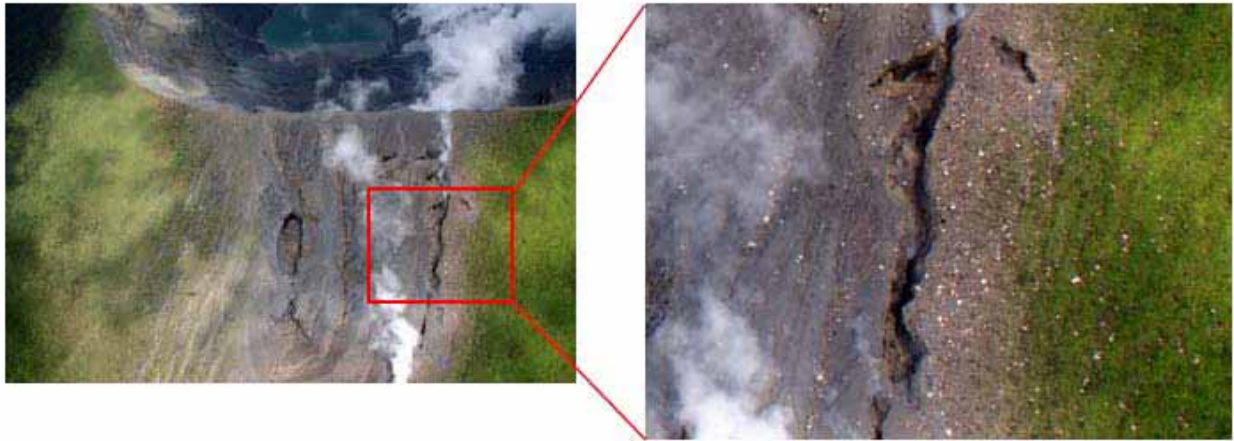
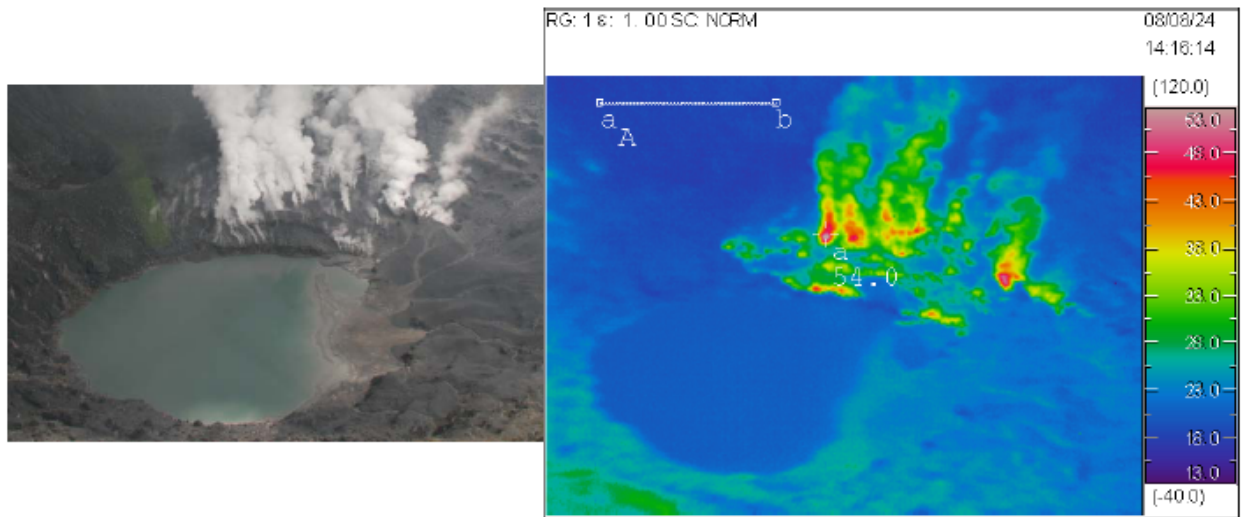
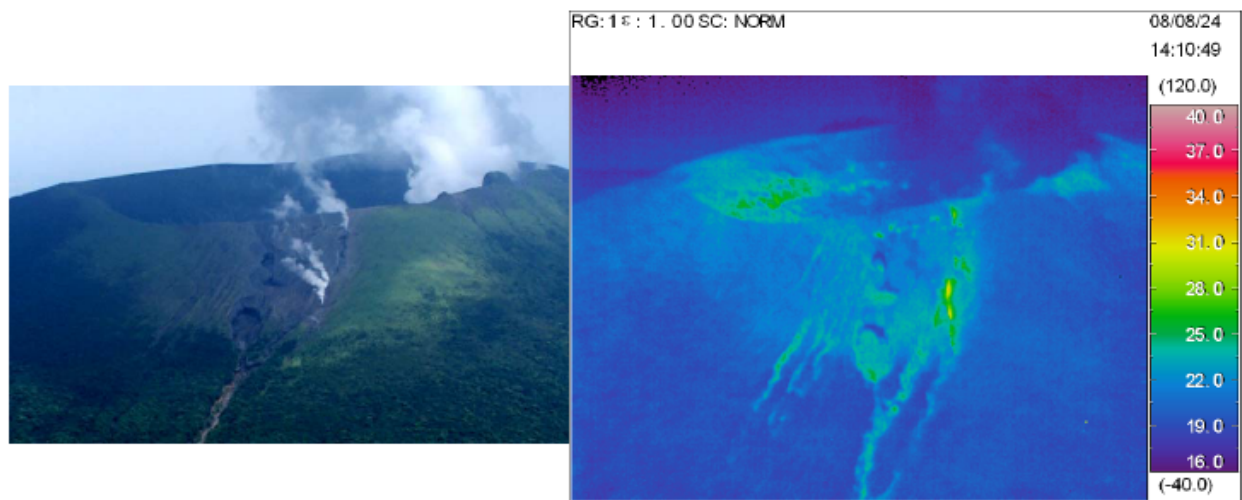


図 12 霧島山(新燃岳) 火口西側の外側斜面に出来た割れ目と噴石(8月24日西側上空より撮影)

- ・割れ目は300~400mの長さであった。
- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石を火口縁から300m付近まで確認した。
- *九州地方整備局の協力による



新燃岳 火口内の可視画像と熱分布(8月24日北側上空より撮影)



新燃岳 火口西側の外側斜面の可視画像と熱分布(8月24日撮影)

- 図 13 霧島山(新燃岳) 火口内及び火口西側の外側斜面の状況
- ・火口内南側一帯の広い範囲から勢いよく白色の噴煙を上げていた。
 - ・火口西側の外側斜面には、新しい割れ目から噴気を上げていた。
 - *九州地方整備局の協力による

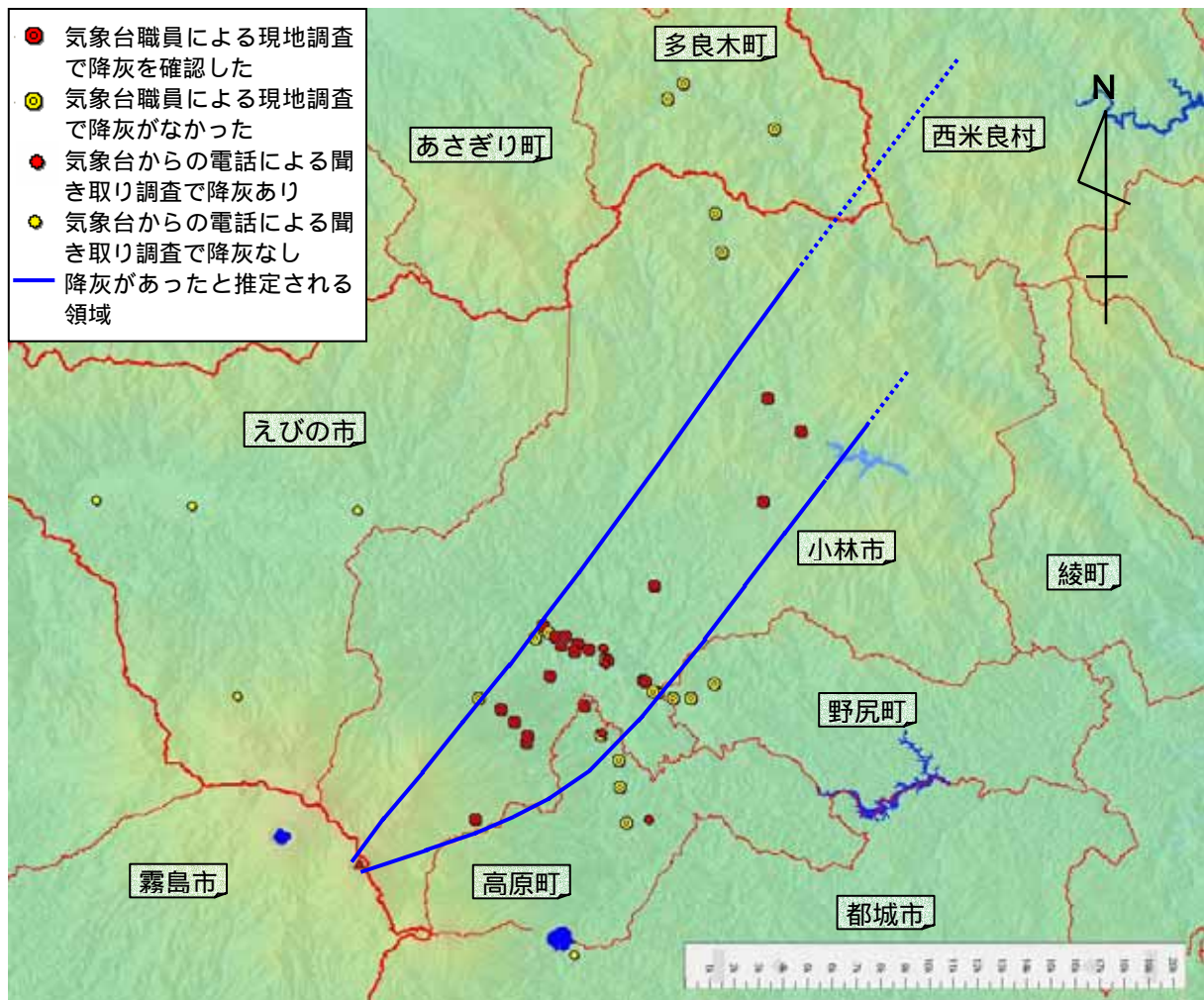


図 15 霧島山 新燃岳 2008 年 08 月 22 日の降灰分布状況

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

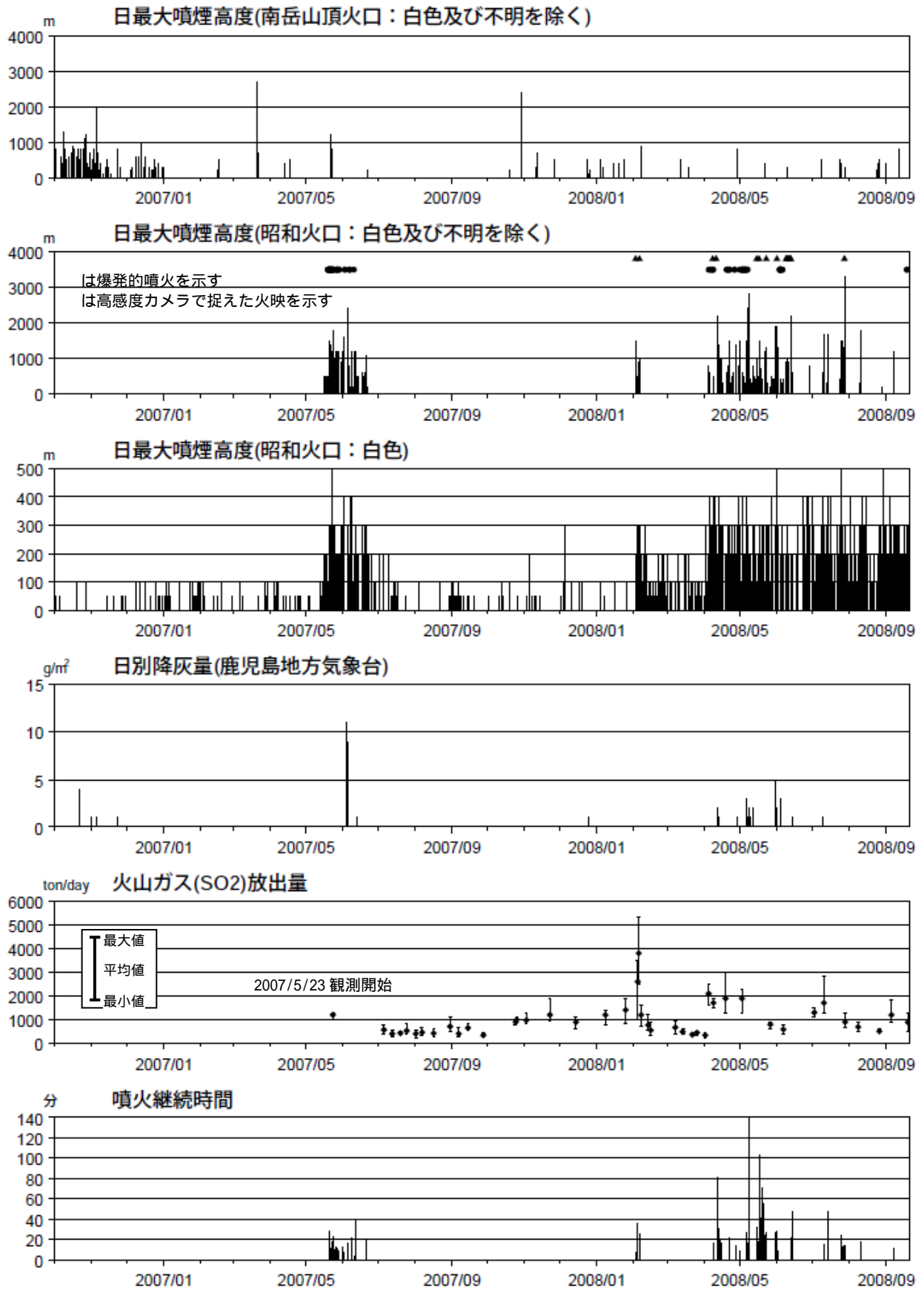


図 7 桜島 最近 2 年間の噴煙の状況、降灰量、火山ガス量、噴火継続時間
(2006 年 10 月 1 日 ~ 2008 年 9 月 20 日)

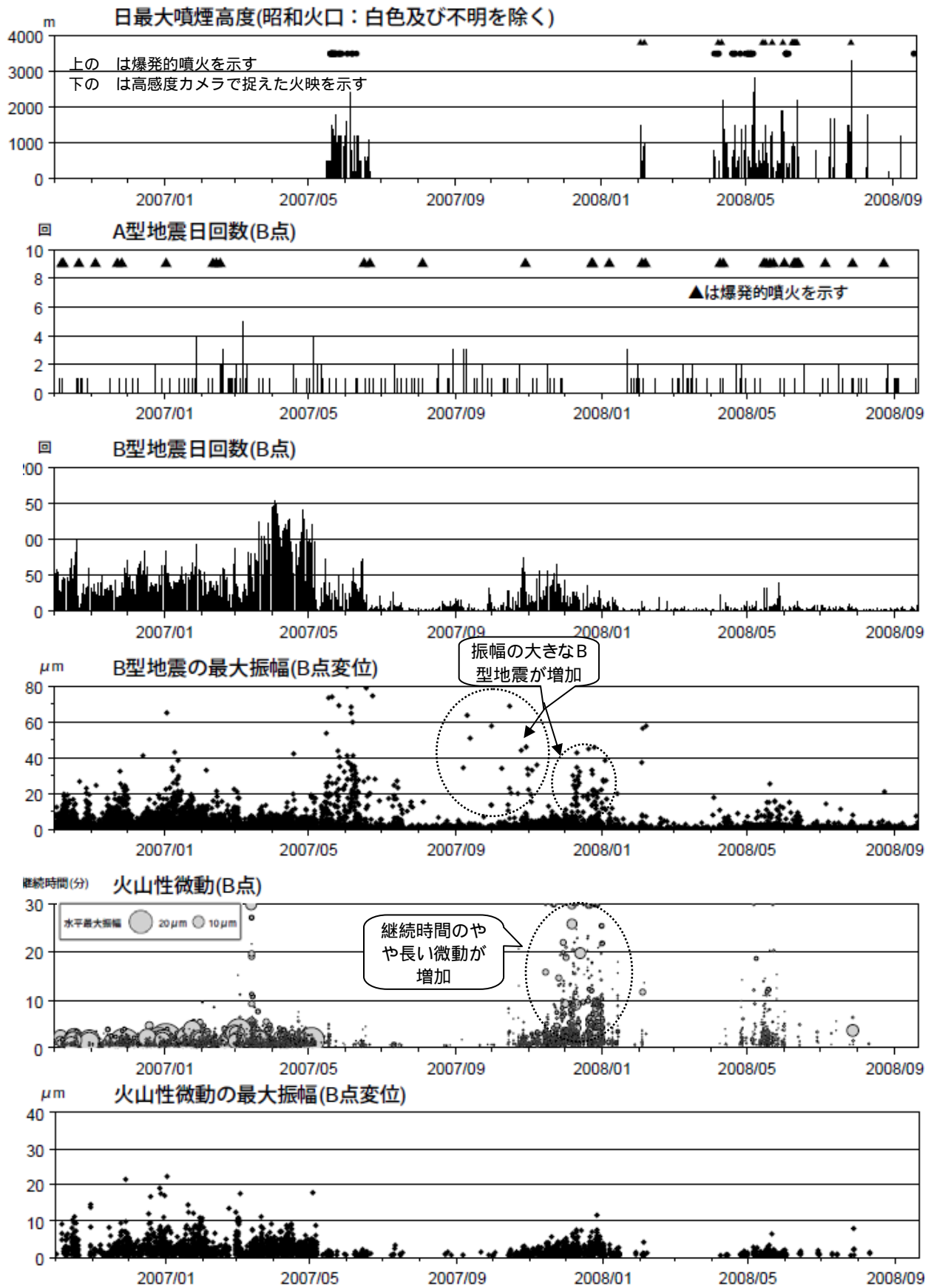
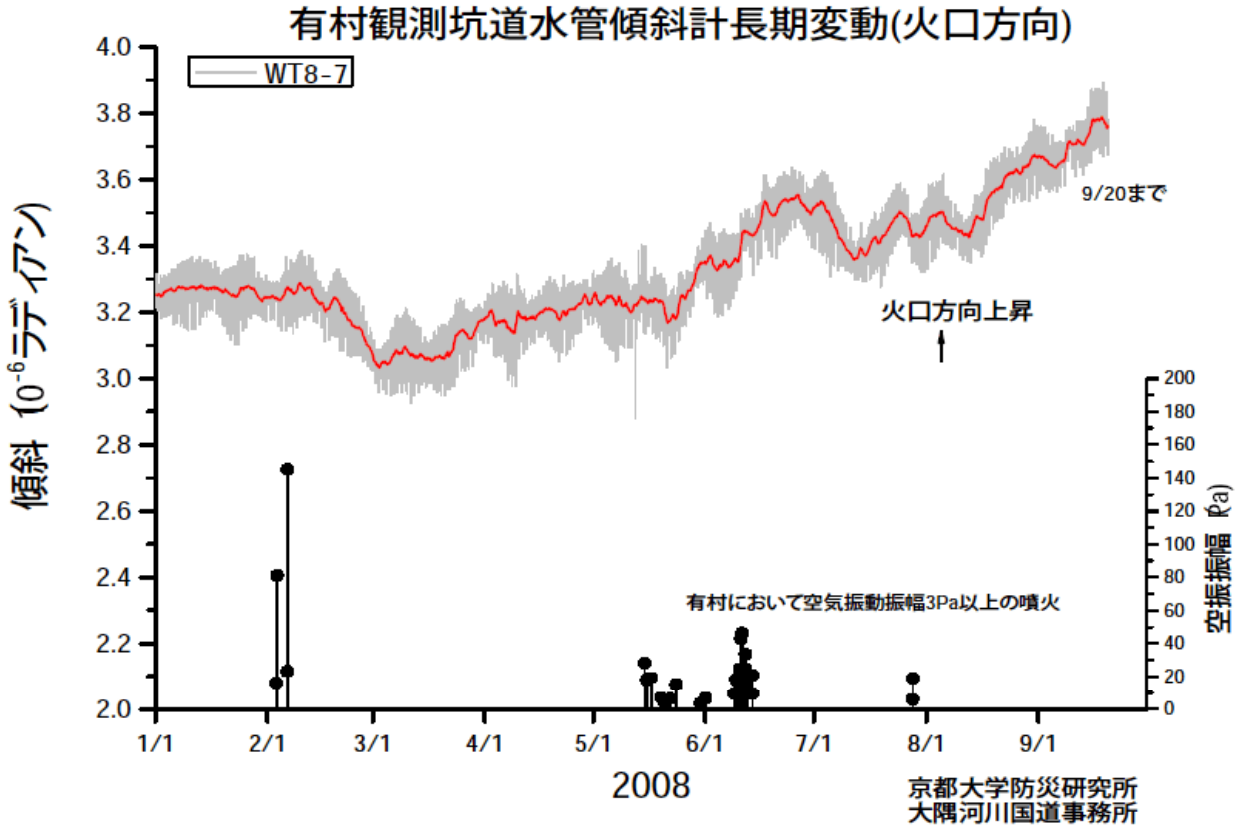
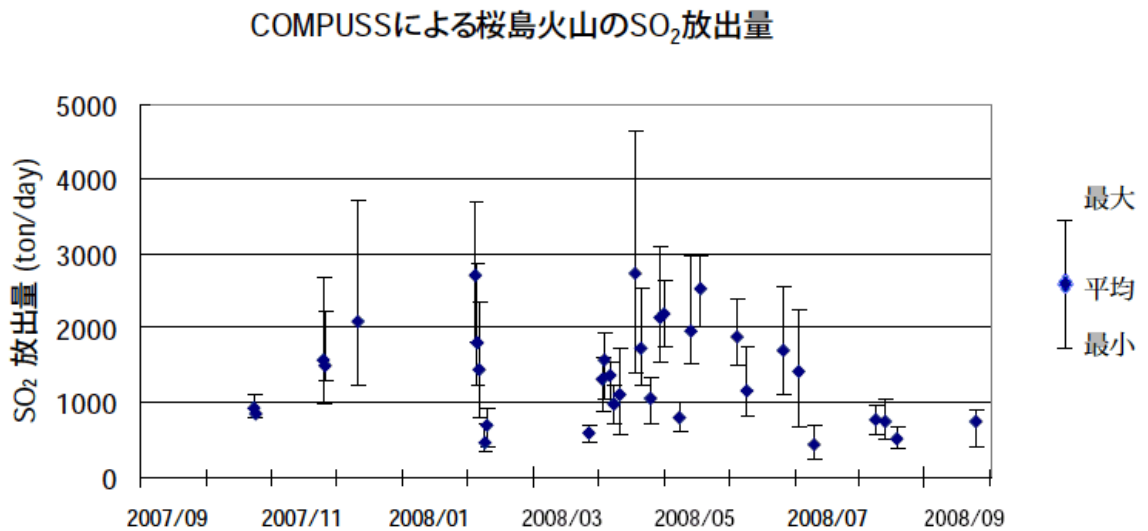


図 8 桜島 最近 2 年間の地震・微動の状況 (2006 年 10 月 1 日 ~ 2008 年 9 月 20 日)
 B 型地震や火山性微動は少ない状態で経過した。

桜島有村観測坑道の傾斜変動と空振振幅



SO₂ 放出量 (ton/day)



桜島
桜島

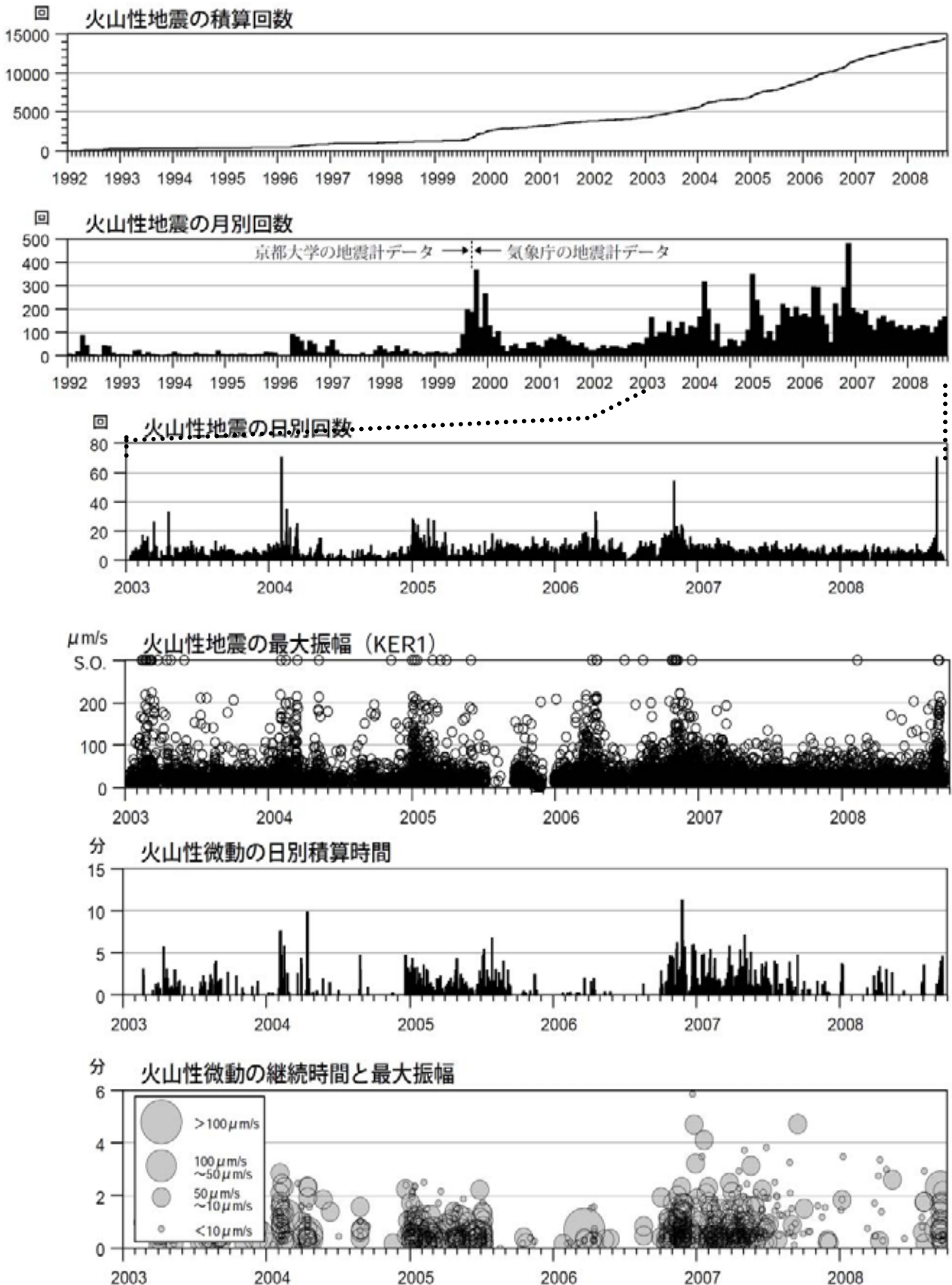


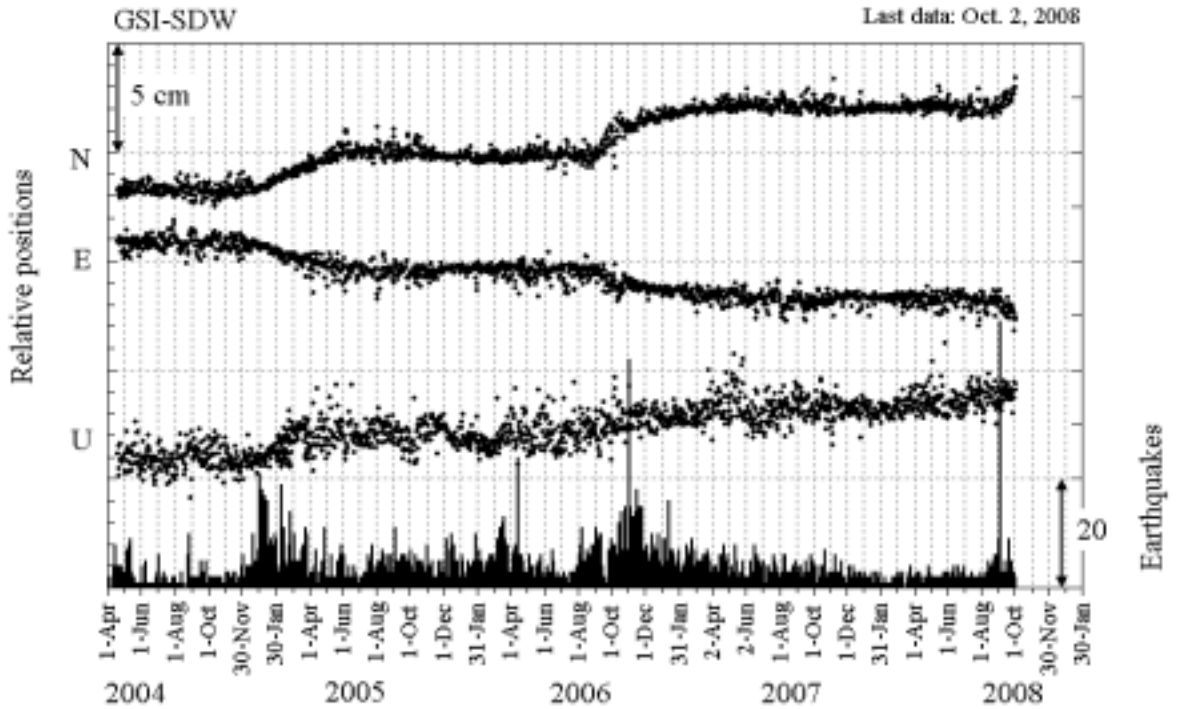
図 4 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日～2008年9月20日)

火山性地震は2007年9月以降、減少傾向にあったが、2008年9月2日以降、振幅のやや大きな地震が増加し、4日は70回発生した。

火山性微動は少ない状態で経過していたが、9月10日以降は時々発生した。

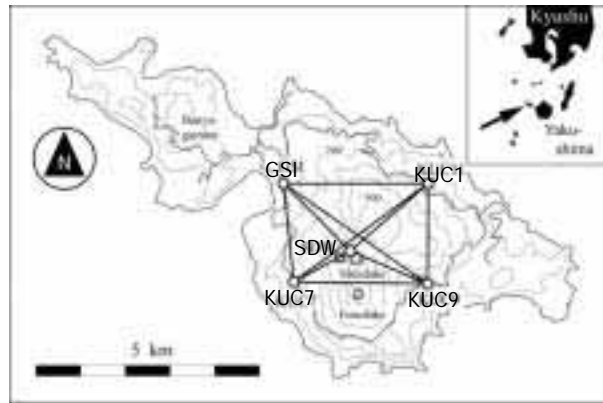
*1992年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日は、京都大学のデータを使用した。

*2002年12月22日～2003年1月11日は、地震計1の機器障害のため欠測した。2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日は、地震計1の機器障害のため地震計3で回数を計数した。



GPS 観測点SDW における変位 .N:南北 ,E:東西 ,U:上下

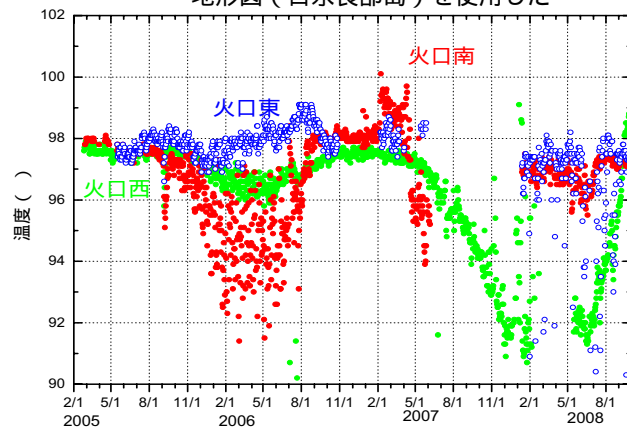
口永良部島新岳の北西 200m の地点に設置した GPS により検出された 2006 年 9 月からの北西方向への変位は、12 月以降ほぼ停止したが、2008 年 8 月末から地震発生回数の増加と共に北西方向への変位が再開した。



観測点位置図の作成に当たっては国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図 (口永良部島) を使用した

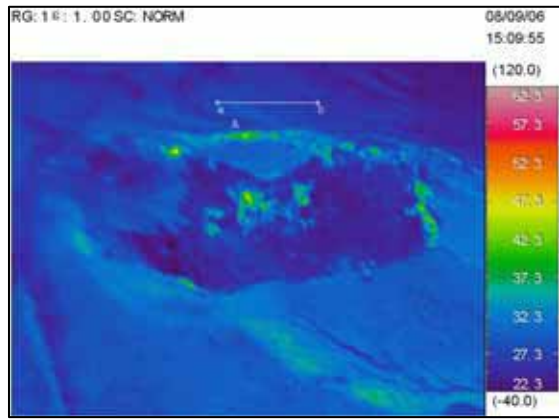
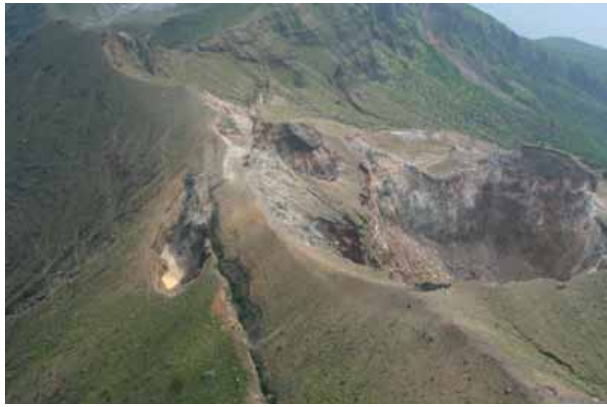
新岳周辺の噴気温度 (日最高)

火口西 (緑色) は今年 6 月頃から急激な温度上昇に転じている。また、火口南 (赤色) も同時期からわずかな上昇を示している。

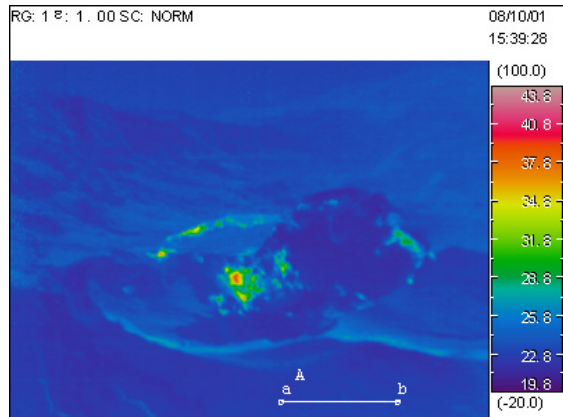


新岳周辺の噴気温度 (日最高)

口永良部島



口永良部島新岳(北北東側からの可視画像と熱画像)2008年9月6日

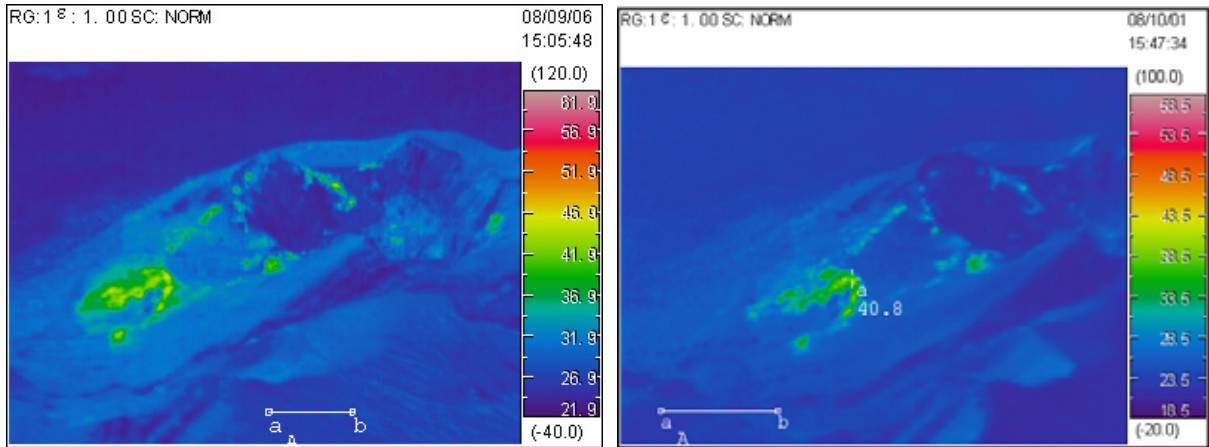


口永良部島新岳(北北東側からの可視画像と熱画像)2008年10月1日



図6 口永良部島 「熱赤外映像装置により北北東側から撮影した口永良部島新岳の表面温度分布」(上:2008年9月6日 下:2008年10月1日)

第十管区海上保安本部、鹿児島県、九州地方整備局および京都大学の協力を得て行った上空からの観測では、口永良部島新岳火口の噴気が増加しているのを確認しました。地熱地帯の温度分布に特段の変化は認められませんでした。



口永良部島新岳(南側からの熱画像)2008年9月6日(左)と10月1日(右)



図7 口永良部島 「熱赤外映像装置により南側から撮影した口永良部島新岳の表面温度分布」
(左:2008年9月6日 右:2008年10月1日)

第十管区海上保安本部、鹿児島県、九州地方整備局および京都大学の協力を得て行った上空からの観測では、地熱地帯の温度分布に特段の変化は認められませんでした。

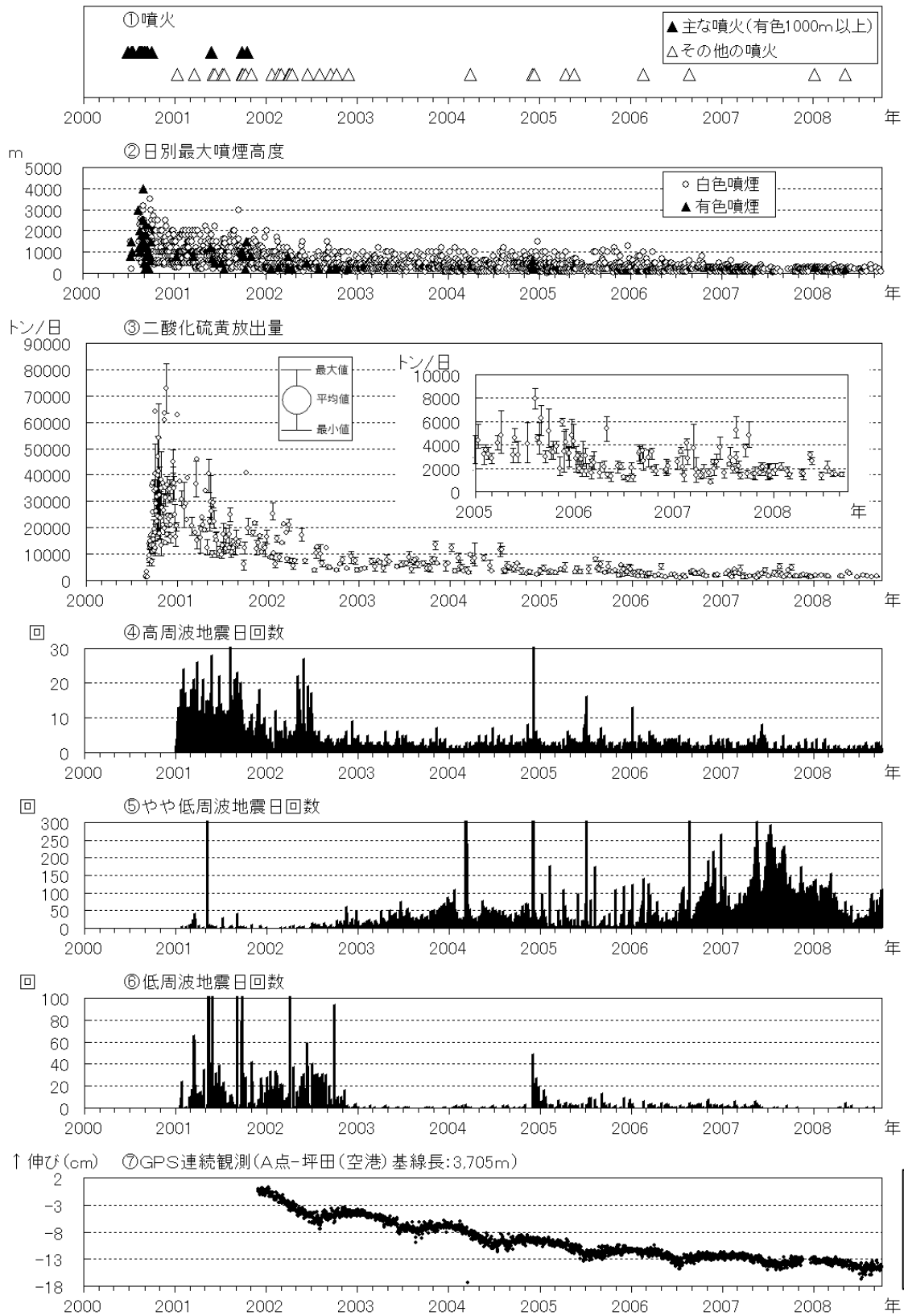


図 3 三宅島 火山活動経過図 (2000 年 1 月 1 日 ~ 2008 年 9 月 30 日)

- 注 1) 及び は、陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て作成している。
- 注 2) は、気象庁火山課、三宅島測候所、産業技術総合研究所地質調査総合センター及び東京工業大学火山流体研究センターが共同で行った。2000 年 9 月以降は COSPEC (Correlation Spectrometer) 型 (Resonance 製)、2005 年 5 月以降は COMPUSS (Compact Ultraviolet Spectrometer System) による観測結果をもとに作成。
- 注 3) 、 及び は、地震タイプ別の計測を開始した 2001 年から掲載。また、地震計数基準は A 点振幅 $8 \mu\text{m/s}$ 以上で S-P 時間 3 秒以内である。

図中の地図作成にあたり、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。